



「戦略的にアジアから留学生を」(本誌9月号掲載、橋本論説委員執筆) に対する読者からの意見

論説については、従来から読者のご意見を歓迎しているところですが、標記の論説の内容については以下の意見が寄せられましたので、掲載いたします。橋本論説や、この投稿ご意見、についての議論を歓迎します。

「頭脳獲得は政策も必要！しかしその代償は？」

小西玄一（東京工業大学）

橋本先生の論説はまさに正鵠を得たもので、この数年で劇的な変革を迫られていることがひしひしと伝わってきます。しかし、年々雑用が増えているような大学の研究室に任せるだけでは不十分。政策として戦略的に日本人も含めた頭脳獲得に乗り出さないと手遅れだと感じます。

(1) 日本人学生への援助

論説に触れられているように優秀な頭脳の獲得には多額の援助が必要なのですが、さて、日本人の博士への援助は十分でしょうか？ 失礼な話かもしれませんが、大学によっては国費留学生のレベルが低く、自腹を切っている日本人学生は不満でしょう。まず先に、国の政策として博士課程の授業料ゼロは当たり前、学振 DC1 の採択率は 50% 達成程度の思い切った学生支援策が必要です。

(2) 研究環境

昨年秋、北京の清華大に行って来ましたが、次々と新棟が建ち、設備の充実も急ピッチで進み、学生寮も林立していました。この現実や米国の大学と日本の標準的な研究室の環境を比較すれば、北京の学生は近い将来、日本にはほとんど留学を希望しないだろうと感じました。すでに現在、卒業生の多くが米国に留学するそうです。日本が勝負できるのは、ヒト（教授）の魅力しかありません。優秀な頭脳を集められる拠点形成には、COE レベル（年数億円）の支援では不足で、研究室や寮の増築から始めなければなりません。

(3) 厳選された拠点の形成

留学生といっても学部、大学院で求めるものは違いますが、幾人もの優秀な留学生に接してみて、そこに強いブランド志向（大学及び指導教授）を感じます。奨学金の枠で縛るのではなく、彼らが希望の場所に進学できるようにしなければ良い人材は集まらないでしょう。現実的に欧米に対抗するには、国際的な大学ランキングの順位向上も含めて、留学生を惹きつけ、生活に対する安心を感じさせる厳選された受け入れ拠点の形成と、教職員の増員も含めて 10 年単位の継続的な援助が必要です。日本の化学はすでに一流、大切なのは研究以外の部分のイメージをよくすることです。日本の街角では英語がほとんど通じないのに、学生寮が不足していて最初の 1 年しか住めませんというようなお寒い状況の克服。さらに主要な言語に精通し、メンタルヘルスの部分までサポートしてくれる事務スタッフの育成と永続的な雇用確立は急務です。そして拠点には街の魅力も重要。京都や情緒あふれる地方の城下町（例えば茶の湯の文化にも触れられる私の前任地の金沢）は文化を学んでもらうのもってこい。街そのものに懐の深さがあります。

(4) 予算の問題

建設的な提案は大いに結構。しかし、年金や健康保険の危機が叫ばれる今、ない袖は振れません。優秀な頭脳を集めるためには、組織（教員）ではなく、ヒト（エリート養成）に予算を投入するというパラダイムシフトを伴います。競争的研究費もさらに拡充・大型化し、雇用費の割合が大きなウェートを占めるようになるでしょう。そうなれば必然的に、大学組織の縮小（学部学科の統廃合、古くなった学問分野の廃止）や大学間の格差拡大も生じるでしょう。戦後ほとんど変わらない大学内の自然科学分野の枠組みの刷新や、大学院重点化のもとに社会の必要に関係なく定員が決められ、充足率の厳守を要求されてきたおかしさが解消されるのはよいとしても、大きな代償を支払わねばなりません。頭脳獲得のためにこんなドラスティックな変化を大学人の側から提案し実施できますか？